

2010年度第3四半期 決算説明資料

2011年1月31日

川崎重工業株式会社



目次

I. 2010年度第3四半期連結決算の概要

◇ 第3四半期決算実績サマリー	1
◇ 前年同期比損益増減要因分析 ①	2
◇ 前年同期比損益増減要因分析 ②	3
◇ セグメント別決算実績	4
船舶海洋	5
車両	6
航空宇宙	7
ガスタービン・機械	8
プラント・環境	9
モーターサイクル&エンジン	10
精密機械	11
◇ 財政状態およびキャッシュフロー	12

II. 2010年度通期業績見通し

◇ 連結受注高・売上高・損益見通し	13
◇ セグメント別業績見通し	14
◇ 研究開発費・設備投資・期末従業員数	15
(補足)セグメント情報開示の変更について	16

I . 2010年度第3四半期連結決算の概要

第3四半期決算実績サマリー

(億円)

	2009年度 3Q累計	2010年度 3Q累計	増 減
受 注 高	6,499	8,740	+2,241
売 上 高	7,980	8,705	+724
営業損益	▲140	387	+527
経常損益	▲55	452	+507
四半期純損益	▲103	281	+384

売上加重 平均レート	ドル(¥/\$)	95	88
	ユーロ(¥/EUR)	132	115

前年同期比

【受注高】

車両において大口受注があったこと等により、全体でも大幅な増加となった

【売上高】

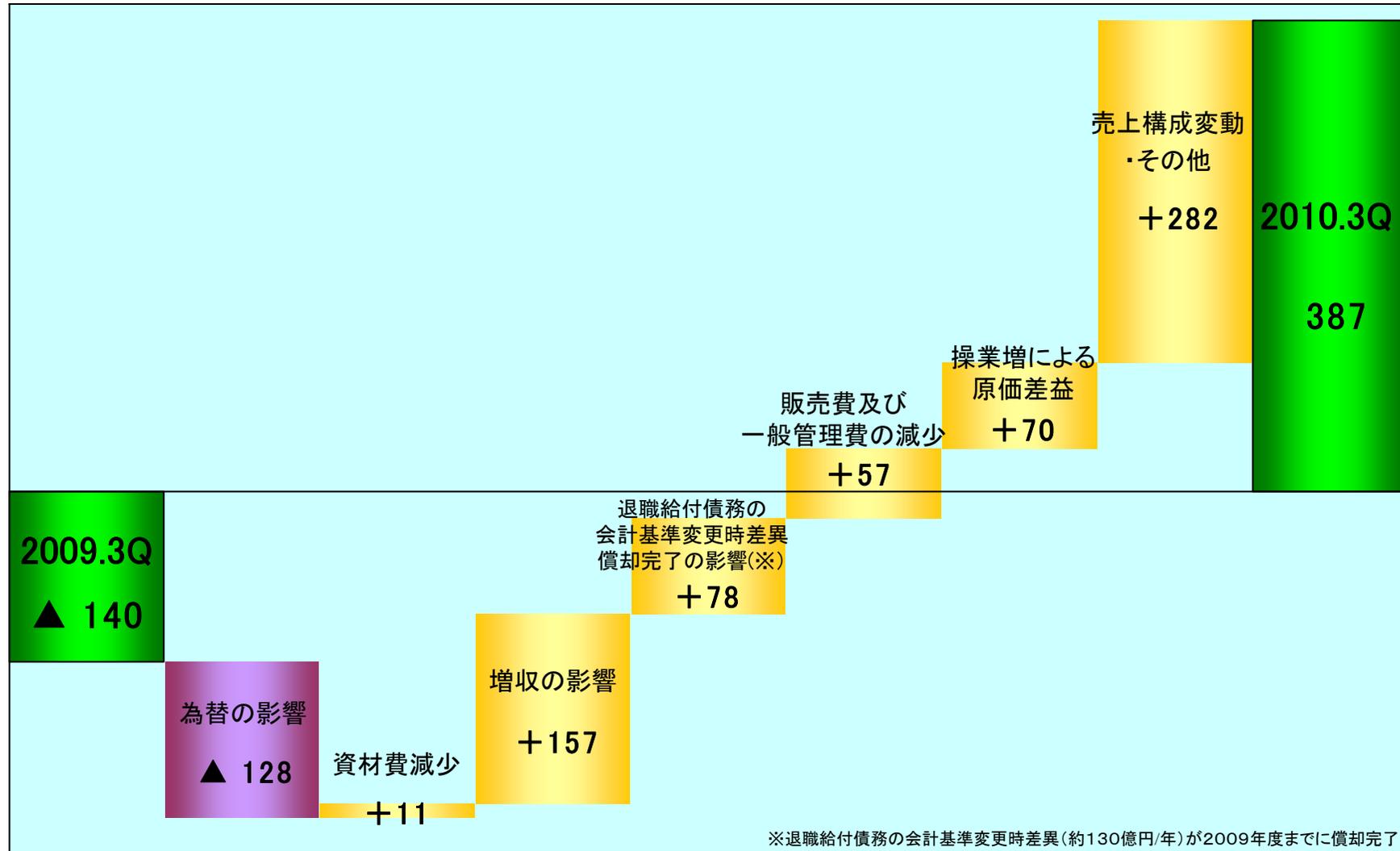
精密機械において新興国向け建設機械用油圧機器が大幅に増加したこと等により、全体でも増収となった

【損益】

円高の影響はあったものの、精密機械での増収やモーターサイクル&エンジンでの固定費削減等の各種収益改善策の効果等により、全体でも大幅な改善となった

前年同期比損益増減要因分析 ①

【営業損益】 前年同期比 +527億円(2009.3Q累計 ▲140億円 ⇒ 2010.3Q累計 387億円)



前年同期比損益増減要因分析 ②

【営業外損益】 前年同期比 ▲20億円 (2009.3Q累計 85億円 ⇒ 2010.3Q累計 64億円)

・金融収支 (受取配当金を含む)	▲ 4億円 (▲12億円 ⇒ ▲16億円)
・持分法による投資利益	+27億円 (43億円 ⇒ 70億円)
・為替差損益	▲61億円 (67億円 ⇒ 5億円)
・その他	+18億円 (▲13億円 ⇒ 5億円)

【特別損益】 前年同期比 +66億円 (2009.3Q累計 ▲71億円 ⇒ 2010.3Q累計 ▲5億円)

・訴訟損失引当金繰入額	+69億円 (▲69億円 ⇒ 0億円)
・その他	▲ 3億円 (▲ 2億円 ⇒ ▲ 5億円)

セグメント別決算実績

(億円)

	受注高			売上高			営業損益		
	2009年度 3Q累計	2010年度 3Q累計	増減	2009年度 3Q累計	2010年度 3Q累計	増減	2009年度 3Q累計	2010年度 3Q累計	増減
船舶海洋	104	672	+567	1,117	932	▲185	8	49	+41
車 両	555	1,241	+686	1,105	955	▲149	52	59	+6
航空宇宙	799	1,237	+437	1,193	1,350	+156	3	20	+16
ガスタービン・機械	1,385	1,136	▲249	1,288	1,496	+207	39	96	+56
プラント・環境	987	1,054	+67	590	564	▲25	7	46	+39
モーターサイクル&エンジン	1,440	1,592	+151	1,440	1,592	+151	▲211	▲26	+184
精密機械	548	1,067	+518	554	990	+435	7	146	+139
そ の 他	676	738	+62	690	822	+132	▲9	16	+26
調 整 額	—	—	—	—	—	—	▲38	▲23	+15
合 計	6,499	8,740	+2,241	7,980	8,705	+724	▲140	387	+527

注1) 2009年度は2010年度からの新事業区分および新会計基準の考え方に基づき再計算した数値 → 16ページ参照

注2) 「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含む

船舶海洋

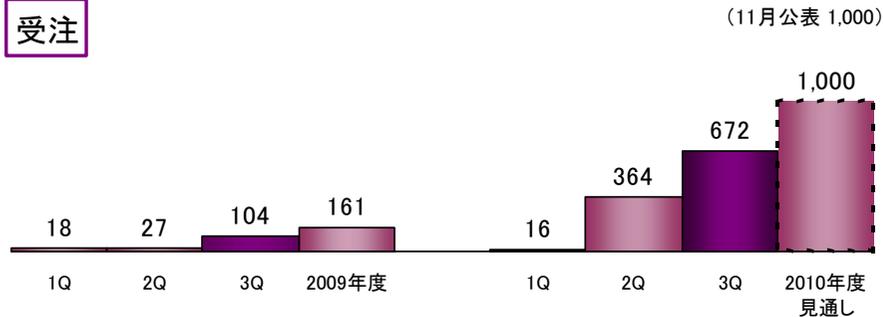
主要製品：LNG船、LPG船、VLCC、バルクキャリア、潜水艦、オフショア関連製品

※ 2010年10月1日付の組織改正に伴い、セグメント名を「船舶」から「船舶海洋」に変更

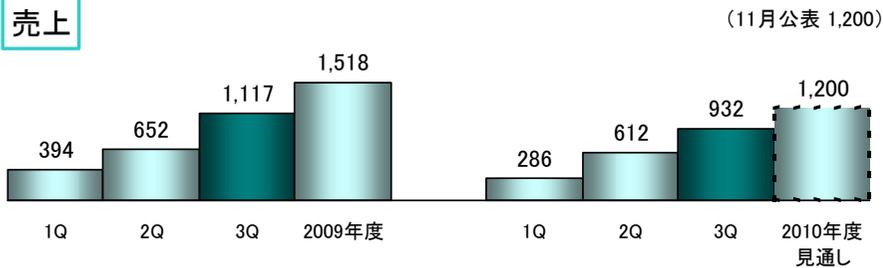
※ 2009年度の営業損益は、2010年度からの新会計基準の考え方に基づき再計算した数値 → [16ページ参照](#)

(億円/各期の数値は累計)

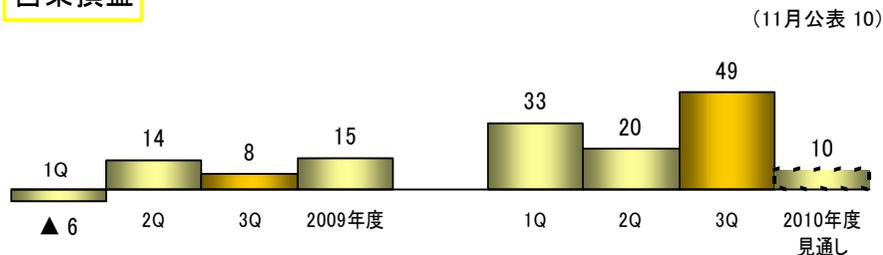
受注



売上



営業損益



◇ 当第3四半期実績 (前年同期比)

受注 潜水艦1隻およびばら積み運搬船10隻を受注

売上 大型船の売上減少

営業損益 受注工事損失引当金の積み増しはあったものの、採算性の向上等により増益

<新造船の受注・売上隻数> (隻)

	受注(3Q累計)		売上(3Q累計)	
	2009年度	2010年度	2009年度	2010年度
LNG船			5(2)	3(2)
小型LNG船	1			1(1)
LPG船			2(2)	4(3)
VLCC			1(0)	
バルクキャリア		10	10(6)	22(16)
潜水艦		1	2(2)	2(2)
合計	1	11	20(12)	32(24)

注) 括弧内は進行基準売上(内数)

◇ 2010年度見通し (11月公表比)

受注、売上、損益とも変更なし

◇ (参考)中国での合併事業について

1995年12月、中国海運最大手COSCO社と合併により中国の南通市にNACKSを設立、2008年には拡張工事を完了。当社の技術支援のもと、大型建造ドック2基でCOSCO社をはじめ中国国内外の顧客向けに超大型コンテナ船・大型原油タンカー・大型鉱石運搬船・自動車専用船等、多種多様な商船を建造。

(持分法適用会社)

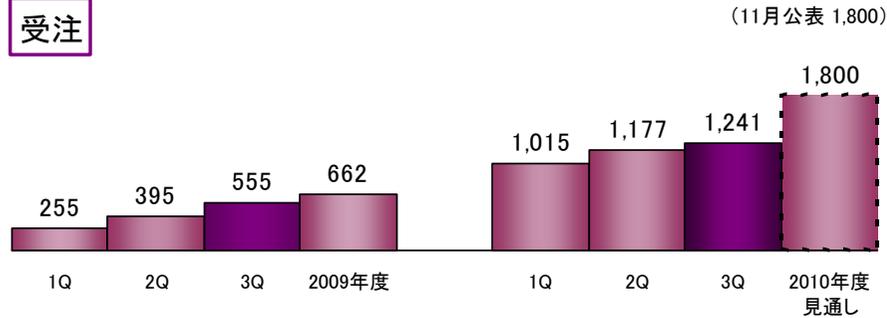
車 両

主要製品： 各種電車(新幹線含む)、機関車、客車、ホームドア、ギガセル(二次電池)

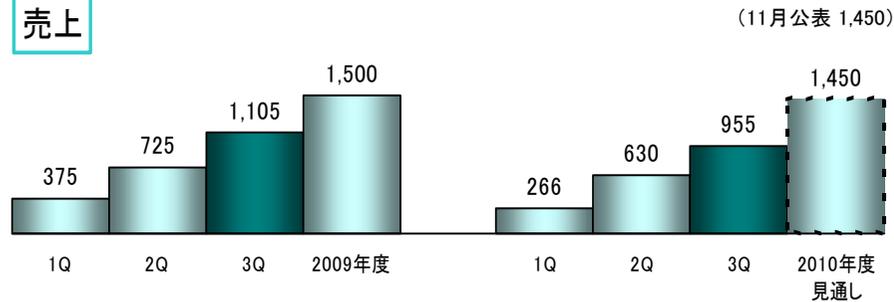
※ 2009年度は2010年度からの新事業区分(除く、破碎機)および新会計基準の考え方に基づき再計算した数値 → [16ページ参照](#)

(億円/各期の数値は累計)

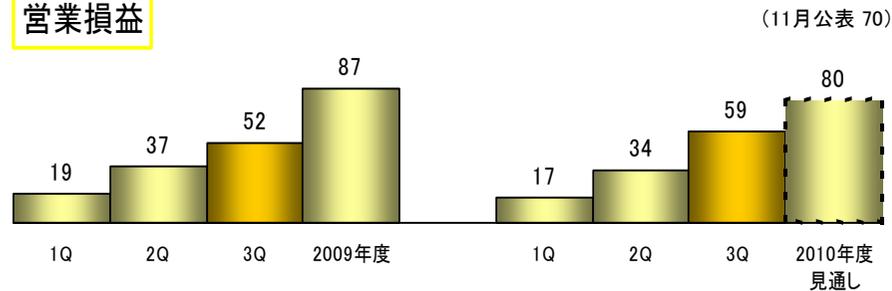
受注



売上



営業損益



◇ 当第3四半期実績 (前年同期比)

受注 大口のワシントン首都圏交通局向け地下鉄電車を受注したこと等により大幅に増加

売上 海外向け鉄道車両の減少等

営業損益 売上の減少はあったものの、採算性の向上等により増益

◇ 2010年度見通し (11月公表比)

- ・ 受注、売上は変更なし
- ・ コスト改善等による採算性の向上により、損益見通しを引き上げ

◇ (参考)海外新規プロジェクトへの取り組み状況

- ✓ 北米
 - 地下鉄、客車・電車を中心に受注活動中
 - 北米市場向けLRVを開発中
- ✓ 高速鉄道
 - 北米、ベトナム等で計画あり、活動中
- ✓ インド貨物専用新線西回廊(1期)(デリー～ムンバイ)
 - 円借款案件、電気機関車を受注すべく活動中
- ✓ アジア地域のE&M案件
 - 他社とのコンソーシアムにより対応中

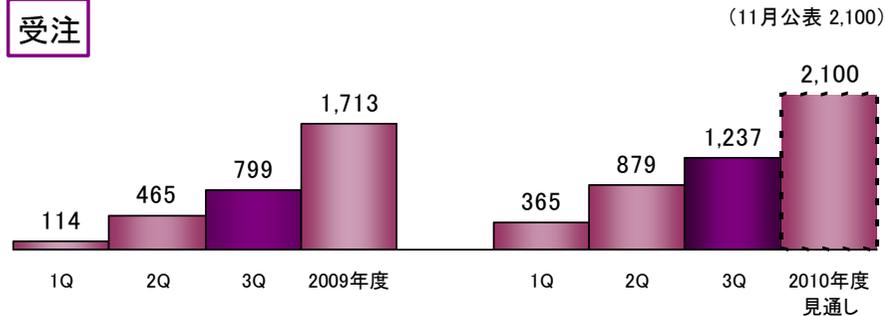
航空宇宙

主要製品： 防需航空機、民需航空機分担製造品(ボーイング・エンブラエル)、誘導機器システム

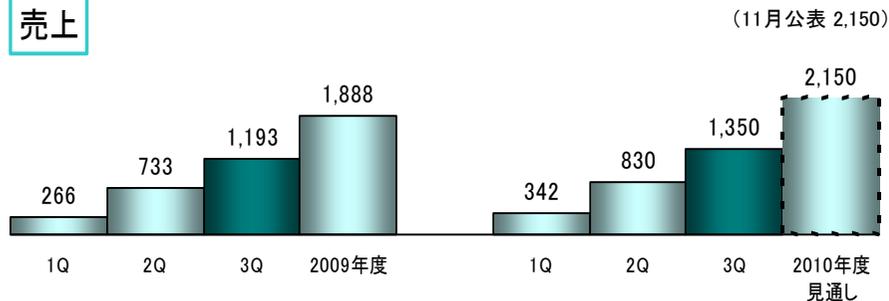
※ 2009年度の営業損益は、2010年度からの新会計基準の考え方に基づき再計算した数値 → [16ページ参照](#)

(億円/各期の数値は累計)

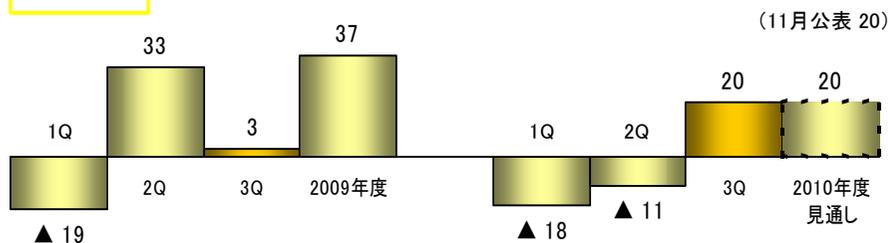
受注



売上



営業損益



◇ 当第3四半期実績 (前年同期比)

受注 BOEING社向けB777・B787分担製造品等の増加
 売上 防需案件およびBOEING社向けB787分担製造品等の増加
 営業損益 円高の影響はあったものの、増収等により増益

◇ 2010年度見通し (11月公表比)

受注、売上、損益とも変更なし

◇ (参考)

✓ **防需航空機分野**: 次期輸送機(XC-2)の試作1号機を当社岐阜工場において製造し、2010年1月に初飛行した後、予定した全ての各種社内試験を完了し、2010年3月30日、同工場において防衛省に納入した。また、試作2号機についても、同工場において製造し、2011年1月27日に初飛行した。

✓ **民需航空機分野**: 「B787ドリームライナー」の増産に向け、2010年3月、名古屋第一工場に新工場(南工場)が完成。2006年7月に完成した北工場と同様に、各種の最新鋭設備を導入し、複合材部品の加工から前部胴体までの組立を一貫生産できる製造ラインを構築。

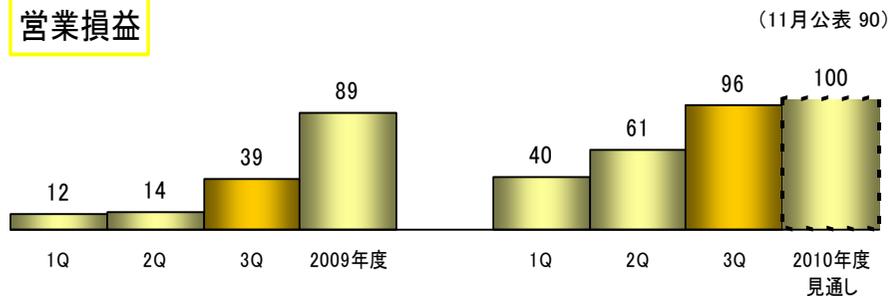
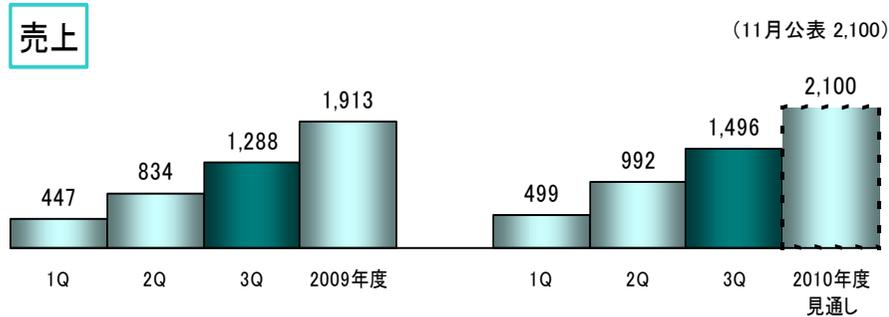
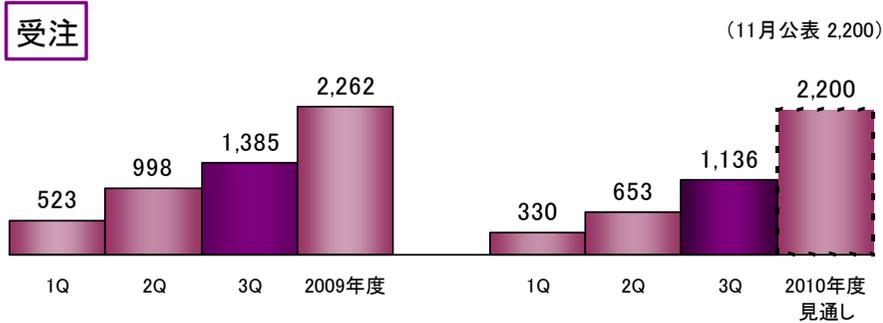
✓ **宇宙分野**: 2010年11月、HII-Bロケット2号機用の衛星フェアリング(2011年1月22日に打ち上げに成功した無人宇宙船「こうのとり2号」を格納)を出荷。

ガスタービン・機械

主要製品： 航空機用エンジン、産業用ガスタービン・コージェネレーション、陸用・船用タービン、ディーゼル機関、空力・水力機械

※ 2009年度の営業損益は、2010年度からの新会計基準の考え方にに基づき再計算した数値 → [16ページ参照](#)

(億円/各期の数値は累計)



◇ **当第3四半期実績** (前年同期比)

受注 前年同期に大口受注のあった航空エンジン分担製造品やガス圧縮機設備等の減少

売上 ガス圧縮機設備や防需案件等の増加

営業損益 増収等により増益

◇ **2010年度見通し** (11月公表比)

- ・ 受注、売上は変更なし
- ・ コスト改善等により、損益見通しを引き上げ

<航空エンジン 主要参画プロジェクト概要>

	V2500	Trent1000	TrentXWB
主な搭載機	A320 他	B787	A350
参画方式	Full Partner方式	RRSP方式 ^(※)	RRSP方式 ^(※)
当社参画比率	約6%	約8.5%	約7%
担当部位	ファンケース、 低圧圧縮機のプレート、 ペーン、ディスク他	中圧圧縮機(IPC) モジュール	中圧圧縮機(IPC) モジュール

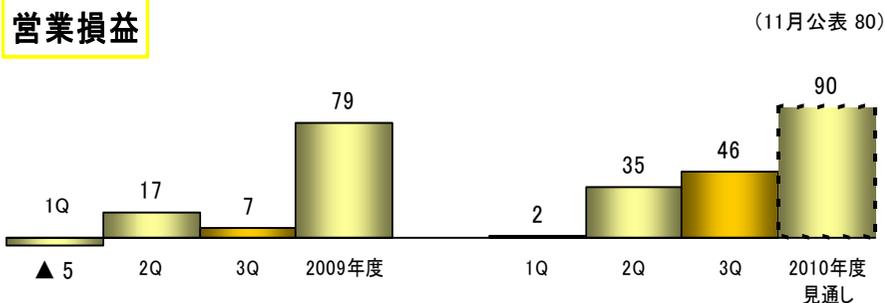
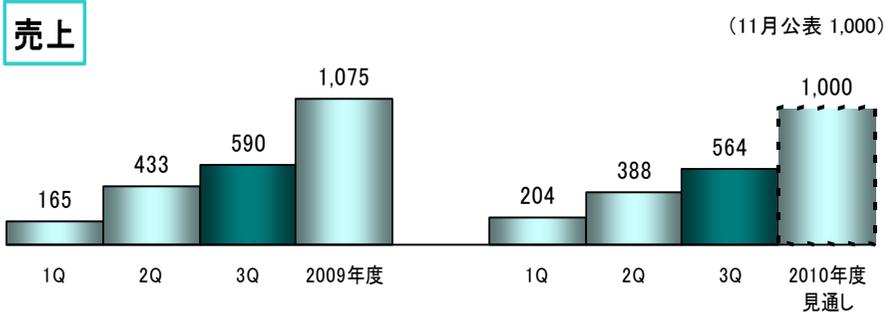
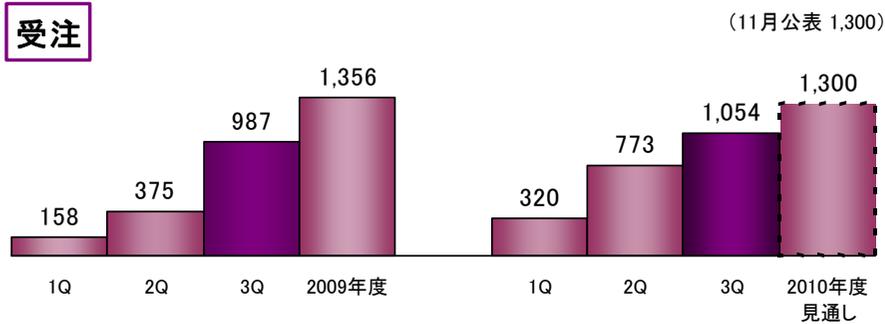
^(※) Risk & Revenue Sharing Partner方式

プラント・環境

主要製品： 産業用プラント(セメント、化学等)、発電プラント、LNG・LPGタンク、都市ごみ焼却施設、掘削機、破碎機

※ 2009年度は2010年度からの新事業区分(含む、破碎機)および新会計基準の考え方にに基づき再計算した数値 → [16ページ参照](#)

(億円/各期の数値は累計)



◇ **当第3四半期実績** (前年同期比)

受注 国内外の各種プラントの増加
 売上 海外向け大型プラントの減少
 営業損益 既受注案件の順調な進捗により増益

◇ **2010年度見通し** (11月公表比)

- ・ 受注、売上は変更なし
- ・ 既受注案件の順調な進捗による収益性改善により、損益見通しを引き上げ

◇ **(参考)中国での合併事業について**

2006年より中国セメント業界最大手のCONCHセメントと合併事業を開始。現在までに3つの合併企業を設立し、中国におけるセメント排熱発電設備・セメント製造設備(プレヒーター、キルン、ミル等)の設計から製造、販売、アフターサービスまでの一貫体制を確立。今後さらに、ガス化炉とセメントキルンを組み合わせたごみ処理設備や高機能膜を利用した水処理設備など、環境保全対策・省エネルギー技術の普及に貢献していく。

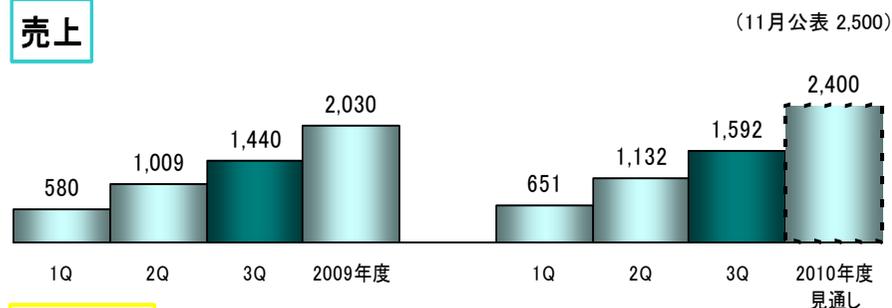
モーターサイクル&エンジン

主要製品： 二輪車、四輪バギー車(ATV)、多用途四輪車、パーソナルウォータークラフト、汎用エンジン

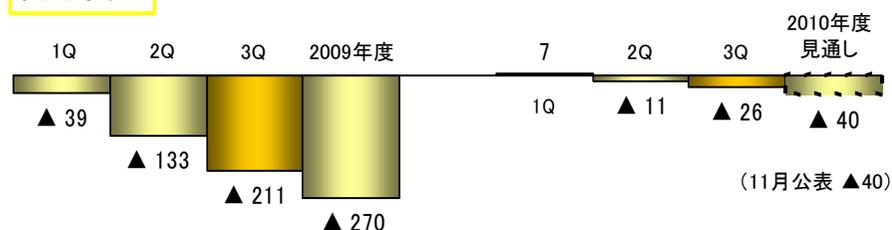
※ 2009年度は2010年度からの新事業区分(除く、ロボット)および新会計基準の考え方に基づき再計算した数値 → [16ページ参照](#)

(億円/各期の数値は累計)

売上



営業損益



◇ 当第3四半期実績 (前年同期比)

売上 新興国での販売増等

営業損益 円高の影響はあったものの、増収に加え、前年度までに実施した緊急収益改善策の効果が発現したこと等により大幅に改善

◇ 2010年度見通し (11月公表比)

- ・ 先進国における二輪車市場の回復遅れおよび円高の進行により、売上見通しを引き下げ
- ・ 先進国における売上減および円高の影響を、新興国での収益改善等で補い、損益見通しを据置き

<コンシューマー向け製品 地域別売上(卸売)台数・金額> (千台、億円)

	2009年度				2010年度			
	3Q累計		通期		3Q累計		通期見通し	
	台数	金額	台数	金額	台数	金額	台数	金額
国内	13	102	17	129	10	82	16	124
北米(カナダ含む)	60(37)	421	80(49)	563	73(37)	532	121(70)	774
欧州	49	391	72	562	43	300	67	469
新興国等	159	319	228	451	195	438	284	621
合計	281	1,233	397	1,705	321	1,352	488	1,988

注1) 二輪車、四輪バギー車(ATV)、多用途四輪車、パーソナルウォータークラフト(「ジェットスキー」)及びこれらの関連製品を含む。

注2) 括弧内は二輪車分を示す。(内数)

◇ (参考)

- ・ 中国においてKYMCO社と合併で汎用ガソリンエンジンの生産・販売会社CK&Kを設立。工場は2010年1月より稼働を開始した。(持分法適用会社)
- ・ 2010年7月1日に、インドに二輪車の輸入・販売を手がける現地法人IKMを設立。

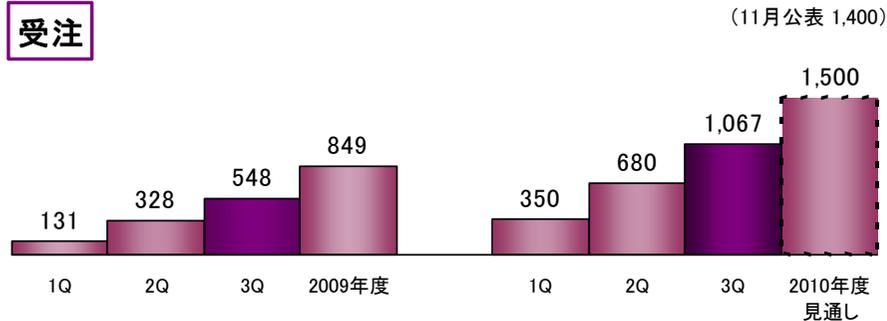
精密機械

主要製品：油圧機器（ポンプ・モーター・バルブ）、陸用油圧装置、船用油圧装置、精密機械・機電製品、産業用ロボット

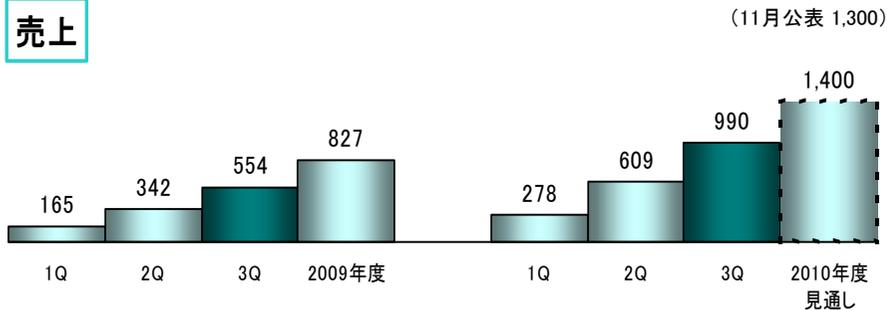
※ 2009年度は2010年度からの新事業区分（含む、ロボット）および新会計基準の考え方にに基づき再計算した数値 → [16ページ参照](#)

（億円/各期の数値は累計）

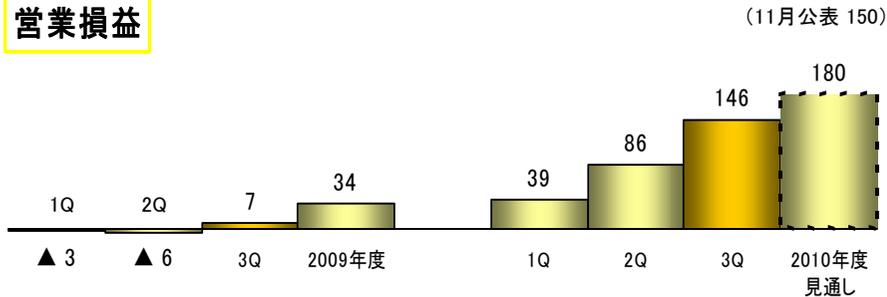
受注



売上



営業損益



◇ 当第3四半期実績（前年同期比）

受注 新興国での建設機械向け油圧機器の増加
 売上 建設機械向け油圧機器および半導体製造装置メーカー向け等の産業用ロボットの売上増加
 営業損益 増収および高操業による収益性の好転等により大幅増益

◇ 2010年度見通し（11月公表比）

- ・ 新興国での建設機械向け油圧機器の増加により、受注・売上見通しを引き上げ
- ・ 増収および諸費用の圧縮等により、損益見通しを引き上げ

◇ (参考)中国での事業展開について

中国における需要増に対応するべく、中国蘇州に現地法人を設立し、2006年8月より油圧機器の生産を開始。さらに、中国企業と合弁で浙江省に油圧機器生産会社を設立し、2010年4月より生産を開始した。
 これら二つの現地生産会社の製品を中国全土の顧客に供給すべく、2010年4月に上海に販売会社を設立・営業開始し、今後さらなる成長が見込まれる中国建設機械市場で当社グループのプレゼンスを高めるとともに、事業のさらなる拡大・深化に向けて体制を整えた。

財政状態およびキャッシュフロー

【財政状態】

(億円)

	2009年度 4Q末	2010年度 3Q末
総資産	13,524	13,999
自己資本 (自己資本比率)	2,770 (20.4%)	2,911 (20.7%)
有利子負債残高 (NET有利子負債)	4,289 (3,941)	5,250 (4,869)
NET D/Eレシオ	142%	167%

注) 有利子負債残高にはリース債務を含む

【キャッシュフロー】

(億円)

	2009年度 3Q累計	2010年度 3Q累計
営業キャッシュフロー	▲987	▲335
投資キャッシュフロー	▲526	▲415
フリーキャッシュフロー	▲1,513	▲750
財務キャッシュフロー	1,516	780

Ⅱ. 2010年度通期業績見通し

連結受注高・売上高・損益見通し

(億円)

	2009年度	2010年度見通し		増減	
	実績	11月公表	今回公表	前年度比	11月公表比
受注高	10,012	13,400	13,400	+3,387	0
売上高	11,734	12,800	12,800	+1,065	0
営業損益	▲13	320	400	+413	+80
経常損益	142	320	460	+317	+140
当期純損益	▲108	200	290	+398	+90

11月公表比

【受注高、売上高】

先進国二輪車市場の回復が遅れているモーターサイクル&エンジンでの減少を、新興国での建設機械向け油圧機器が増加している精密機械での増加で補い、前回公表値を据置き

【損益】

・精密機械の積極的な事業展開により収益基盤が拡大していることに加え、全社的に推進している固定費の圧縮・生産性の向上等の収益改善諸施策の効果が着実に結実していること等により、損益見通しを引き上げ

・経常損益については、持分法損益の好転および支払利息の減少等もあり、営業損益に比べ引き上げ幅が大きくなっている

実績/前提 レート	ドル(¥/\$)	93	83	83
		ユーロ(¥/EUR)	130	115

注) 前提レートは見通し公表時の為替エクスポージャーに対して適用

(参考) 為替影響額

1円の変動による影響額

(億円)

	営業利益	経常利益
ドル	20	20
ユーロ	3	1

セグメント別業績見通し

(億円)

	受注高			売上高			営業損益		
	2009年度	2010年度見通し		2009年度	2010年度見通し		2009年度	2010年度見通し	
	実績	11月公表	今回公表	実績	11月公表	今回公表	実績	11月公表	今回公表
船舶海洋	161	1,000	1,000	1,518	1,200	1,200	15	10	10
車 両	662	1,800	1,800	1,500	1,450	1,450	87	70	80
航空宇宙	1,713	2,100	2,100	1,888	2,150	2,150	37	20	20
ガスタービン・機械	2,262	2,200	2,200	1,913	2,100	2,100	89	90	100
プラント・環境	1,356	1,300	1,300	1,075	1,000	1,000	79	80	90
モーターサイクル&エンジン	2,030	2,500	2,400	2,030	2,500	2,400	▲270	▲40	▲40
精密機械	849	1,400	1,500	827	1,300	1,400	34	150	180
そ の 他	975	1,100	1,100	978	1,100	1,100	▲10	10	20
調 整 額	—	—	—	—	—	—	▲75	▲70	▲60
合 計	10,012	13,400	13,400	11,734	12,800	12,800	▲13	320	400

注1) 2009年度は2010年度からの新事業区分および新会計基準の考え方に基づき再計算した数値 → [16ページ参照](#)

注2) 「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含む

研究開発費・設備投資・期末従業員数

(億円・人)

	2009年度 実績	2010年度 見通し	増 減
研究開発費	380	405	+24
設備投資	592	700	+108
減価償却費	514	510	▲4
国内	24,396	24,600	+204
海外	7,901	8,100	+199
期末従業員数	32,297	32,700	+403

(補足)セグメント情報開示の変更について

<事業区分並びに事業区分名称の変更>

2010年4月より社内管理区分を変更しており、事業区分並びに事業区分名称を以下のとおり変更している。

事業区分の変更

破碎機部門 : 「車両事業」から「プラント・環境事業」へ

ロボット部門 : 「汎用機事業」から「精密機械事業」へ

事業区分名称の変更

(旧)「汎用機事業」 ⇒ (新)「モーターサイクル&エンジン事業」

(旧)「油圧機器事業」 ⇒ (新)「精密機械事業」

<セグメント情報等の開示に関する新会計基準の適用>

従来の基準では、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用について、開示上のみ一定の基準に基づき再配賦した上で事業別営業利益を計算していたが、2010年度からマネジメント・アプローチを採用した新基準が適用されたことに伴い、当該費用の再配賦計算は行わないこととした。

このため、過年度の実績についても、新基準の考え方に基づき再計算し、本資料各ページに掲載している。

世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する “Global Kawasaki”

ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみにより投資判断を下すことはお控え下さるようお願い致します。実際の業績は、外部環境及び内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、税制や諸制度などがあります。